

【日本小児はり学会 第9回学術集会 in 愛知】

2015年9月27日(日)、名古屋駅前の「ウインクあいち」にて開催された日本小児はり学会 第9回学術集会に参加してきました。

会場に入ると200名ほどの方が既にみえ、(一社)愛知県鍼灸師会の会員さんも多数参加されて見えました。

内容の一部を下に記載します。

1. タッチングについて

- ・タッチ→C線維を通じて→脳内の報酬系に届く→ドーパミン・セロトニンを産出→快感
- ・皮膚を温めると心も温まる。
- ・タッチ=ノンバーバルコミュニケーション=非言語コミュニケーション
- ・オキシトシン = 良好な人間関係を築く上で必要なホルモン(タッチで増加)
- ・皮膚は第3の能 腸は第2の能
- ・ケラチノサイト = 表皮を構成する細胞の大部分である角化細胞(ケラチノサイト)
生まれてから垢(角片)となつてはがれ落ちるまでの課程を角化という。
- ・皮膚 う=潤い な=滑らかさ は=張り だ=弾力 け=血色
- ・小児はり = 5分以内 刺激過多に注意

2. 身体心理学

- ・心身二元論的な分断を避け身体的要素との関連の上で心理学的研究・実践を進める心理学の一分野である。
- ・物的で解剖学的な身体ではなく「私にとって感じられているからだ」に注目し「からだところ」の関係をこころの側から研究するものである
- ・「身体」=物質的 「からだ」=精神をも含むという意味
- ・神聖ローマ帝国の皇帝フリードリッヒ二世(抱いたり言葉をかけない=50人が死亡)
- ・アメリカの心理学者ワトソン(自立性促進=抱いたりキスをしない→成人してから問題発生)
- ・主観的健康観が高い人に対し、主観的健康観が低い人は死亡発生率は、1.5~3.0倍



(文責) 長谷川栄一

左から杉原由美子(一社)愛知県鍼灸師会理事、恵美公二郎日本小児はり学会会長、長谷川栄一(一社)愛知県鍼灸師会会長、田頭誠司(一社)兵庫県鍼灸師会副会長